

令和3年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

南河内地区唯一の夜間定時制高校の意義を踏まえ、地域に根差した教育活動を行い、将来地域を担う人材を育成し、地域と共に歩む学校をめざす。

- 1 働きながら学ぶ生徒をはじめ、多様な生徒一人ひとりに対して、生徒の興味・関心に応じた特色ある教育活動を展開する。
- 2 生徒に基礎・基本の学力を定着させるとともに、自尊感情と自己有用感を高め、志と生活力のある社会人を育成する。
- 3 地域との連携を深め、地域から信頼され必要とされる人材を育成する。

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

(1) 生徒の基礎学力を向上させる。

- ア 生徒の学習意欲を高め「わかる授業」を実現するため、全教科・科目において、ICT機器活用を推進し、授業内容・方法の改善を進める。
- イ 生徒の基礎学力の定着をめざした、授業方法の開発・実践を行う。
- ウ 教員の更なる授業力向上のため、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりを推進する。
- エ 新型コロナウイルス感染症に係る対応として、広報・情報委員会を中心とし、ICT環境の校内整備やワイハイ環境等SNS環境を持たない生徒対応を行う。

(2) 生徒の興味・関心、進路希望等に応じた特色ある教育課程の充実を図る。

- ア 生徒の実態に合った、基礎的・基本的な学力の定着をめざした、教育課程の充実を図る。
- イ 特別非常勤講師等の外部講師を積極的に活用し、高度な技能・技術など本物に触れる教育を実施する。

※生徒向け学校教育自己診断における「わかりやすい授業が多い」の肯定的回答(H30:65.2%、R01:78.9%、R02:71.9%)を、令和5年度には80%以上にす

る。

2 生徒の規律・規範の確立と豊かな心をはぐくむ

(1) 志や夢を育み豊かな人間性を涵養する。

- ア 「農園実習」や「ボランティア活動」を通して、豊かな人間性や自尊感情・自己有用感を育む。
- イ 「寄り添う教育」を基幹としながらも、校則の遵守や学習規律の向上など、生徒の規範意識の醸成に取り組む。
- ウ 生徒の規範意識の向上と地域貢献のため、学校周辺の清掃活動「クリーンキャンペーン」を実施する。

(2) キャリア教育の充実、資格取得の充実を図る。

- ア 入学時から教育活動全体を通じて進路指導を行い、正規雇用をめざした就職支援体制を整える。
- イ 実践的な職業教育を通じて、社会人としての資質や能力を高めるとともに、進路につながる資格取得のための支援を充実させる。

※進学希望者の進学率(H30:100%、R01:77.8%、R02:50.0%)及び就職希望者の内定率(H30:69.7%、R01:72.4%、R02:76.0%)ともに100%を目標とする。

(3) 中途退学・不登校の減少に取り組む。

- ア 中高連携・人間関係や居場所づくり・基礎学力養成講座など、中途退学・不登校を減少させるための取り組みを行う。
- イ 「課題を抱える生徒フォローアップ事業」を活用し、生徒支援(中退防止)コーディネーターを中心としたプロジェクトチームによる、様々な課題を抱える生徒への支援体制づくりや教育相談を充実させ、生徒が安心して学校に通える環境づくりを行う。

※生徒向け学校教育自己診断における、学校に対する満足度(H30:72.6%、R01:74.4%、R02:74.3%)を、令和5年度には肯定的回答を80%以上にす

※教育相談体制をさらに充実させ、生徒向け学校教育自己診断における「担任以外に相談することができる先生がいる」(H30:58.9%、R01:63.1%、R02:59.4%)を、令和5年度には70%に引き上げる。

3 学校・家庭・地域の連携と安全で安心な学校づくり

(1) 生徒たちの安心と安全のための取組みの充実を図る。

- ア 校内の教育相談体制を充実させ、生徒が気軽に相談できる雰囲気づくりに努める。
- イ 通学時の安全確保のため、自動車・バイク・自転車通学生徒に対して、交通安全指導を行う。
- ウ 覚せい剤・大麻等の薬物乱用防止教育を、学校全体の教育活動全体を通じて取り組む。
- エ 保健・安全衛生に関して啓発を行い、感染症や熱中症、食物アレルギー等に係る予防や事故防止に努める。

(2) 家庭・地域との連携を密にし、地域から信頼され必要とされる学校づくりを進める。

- ア 長期欠席等の生徒の状況を家庭に連絡し、保護者への協力を得るなど、家庭と連携した生徒の出席状況の改善を行う。
- イ 在籍生徒の出身中学校を訪問し、情報交換等を行い、中学校との連携を深め、生徒理解や生徒支援の充実を図る。
- ウ 近隣幼稚園等の園児・地域の方を、農園の作物収穫へ招待し、地域との連携を深め、「クリーンキャンペーン」等の取り組みを通じて、地域と共に歩む学校づくりを進める。
- エ 編入生を受け入れ、卒業まで導くサポートを行い、地域の「学び」のセーフティネットとしての定時制の役割を果たす。
- オ 生徒が安心して学校生活を送れるための合理的な配慮を推進し、「ともに学び、ともに育つ」学校づくりをめざす。

※保護者向け学校教育自己診断における学校に対する満足度(H30:81.7%、R01:80.7%、R02:81.0%)を、令和5年度には85%以上をめざす。

4 学校運営の活性化と教職員の資質向上

(1) 学校運営の活性化を図る。

- ア 准校長のリーダーシップのもと、首席を中心に各分掌長とコミュニケーションを密に取りながら、PDCAサイクルによる学校経営を推進する。
- イ 分掌や委員会等の活性化と効率化を図り、生徒の状況や配慮事項等の情報共有を行い、速やかに課題解決に臨む。
- ウ 働き方改革を推進するため、「府立学校における働き方改革にかかる取り組みについて」に沿って、意識改革を進めていく。
- エ 学校経営の状況を、学校運営協議会等で公表し学校運営に資する。

(2) 教職員の資質向上を図る。

- ア 日常的なOJTの推進、校内研修の活性化を行う。
- イ ベテランの教職員の協力を得ながら、ミドルリーダーの育成、教職経験の少ない教職員の資質向上を図り、次世代の校内運営を担う人材の育成を行う。

※令和5年度には校内研修、報告会、連絡会を合わせて年間10回以上実施し、人材の育成や情報の共有などを図る。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和3年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>経年変化を見るため同じ質問項目で実施。提出率は、生徒…68.1%→73.6%、保護者…57.8%→58.4%、教員…100%→100%であった。生徒と保護者共、更に回収率を上げる工夫が必要(試験期間や懇談や家庭訪問の機会等の利用、また返信用封筒を入れて郵送する等)。</p> <p>【学習指導等】</p> <p>・生徒「わかりやすい授業が多い」(71.9%→64.1%)。保護者「子どもは、授業がわかりやすく楽しいと言っている」(60.8%→69.9%)。教員「教材の精選・工夫を行っている」(95.8%→96.2%)、「指導方法や学習形態の工夫・改善を行っている」(95.8%→96.2%)であった。教員の「教材の精選・工夫を行っている」「指導方法や学習形態の工夫・改善を行っている」が共に100%になるよう実践する意識を持って欲しい。</p> <p>【生徒指導等】</p> <p>・生徒「学校に行くのが楽しい」(66.7%→60.9%)、「先生は生徒のことを、よく見て対応してくれる」(82.3%→81.5%)、「学校生活について、先生の指導には納得できる」(80.2%→72.9%)。「人権の大切さについて学ぶ機会が多い」(71.9%→69.6%)、「社会人になったときに必要になってくることについて学ぶ機会が多い」(81.3%→73.9%)。保護者「学校の生徒指導の方針に共感できる」(86.4%→87.7%)、「学校は生活指導の面で、家庭への連絡や意志疎通を積極的に、きめ細かく行っている」(87.8%→94.5%)。「学校は生徒に生き方を考えさせ豊かな心を持った生徒を育てようとしている」(89.2%→89.0%)、「学校は子どもに生命を大切にすることや社会ルールを守る態度を育てようとしている」(90.5%→82.2%)、「学校は生徒に人権を尊重する意識を育てようとしている」(91.9%→89.0%)。教員「生徒指導において、家庭との連携ができていく」(95.9%→92.3%)。これらの結果を踏まえ、引き続き保護者と連絡を取り合い理解と協力を得ながら、個々の生徒に対して丁寧に粘り強く指導したいと考えている。</p> <p>【学校運営】</p> <p>・教員向け学校教育自己診断における学校運営についての満足度(75.8%→76.4%)、各項目を精査し、経営戦略会議の有り方を再考し、経営戦力会議後の首席を中心とした毎週の分掌長会議・情報交換会等を継続していきたい。また、教職員と様々な場面でコミュニケーションを図りながら次年度の学校運営に生かしたい。</p>	<p><第1回 令和3年7月8日(木)></p> <ul style="list-style-type: none"> 急速に発達しているGIGA構想の現状について詳しくお聞きしたい。 セーフティネットの役割は大切であり、将来へつながる子どもたちのために、情報社会化する今後の未来のために、GIGAスクール構想含めて環境を整えてもらいたい。 在籍者数減少の要因をお聞かせ願いたい。 現在の就職状況についてお聞かせ願いたい。 コロナにより様々な制限を受けて、生徒が落ち込んだりしていないか心配。 生活困窮に陥る生徒は増えているか。 コロナによる制限で実習や部活動ができないため、子どものストレスが心配である。 修学旅行をはじめ、学校行事を実施してほしい。 <p>*コロナ禍の影響で教育活動が大変な状況のなかで、熱心に取り組んでおられる教職員の皆さんへの感謝とねぎらいの言葉があった。</p> <p><第2回 令和3年10月27日(水)></p> <ul style="list-style-type: none"> コロナ感染者数について 先生方のワクチン接種について ウイズコロナが続き、工夫をすれば何かできることを会社でも言っているが、楽しんでやってもらいたいと思う。 SSWについて、面談の仕方についてどのように生徒へ働きかけているかお聞かせ願いたい。 ガン教育について、経緯を教えてください。 クリーンキャンペーンに対するお礼 新パンフレットについて出来上がったら見せて欲しい。 <p><第3回 令和4年2月7日(月)>(コロナ禍のため書面開催)</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒向け学校教育自己診断において「学校に行くのが楽しい」「進路や生き方について考える…」の肯定的な数値が下がっている。コロナ禍で活動に制限があるためと思われるが、充実した学校生活を送れるようにして欲しい。 家庭環境の悩み、コロナ禍における不安や、SNS、ネット等の誤情報等によるもの、ストレスも増える。引き続き細やかなサポートをお願いしたい。 精神的に不調で鬱的傾向に陥る生徒対応をSSWやSCと協働して対応をお願いしたい。 進路指導において、卒業生に進路選択や現在の状況を話す機会を設けるのも効果的である。 校内の問題行動についてアンケートで「問題が起きた時、組織的に対応できているか」「防止の早期指導」についての数値から見直し等が必要であると感じる。 なごみカフェへのボランティア参加は、生徒にとってロールモデルができ、学生にとってはサービラーニングとして良い取り組みである。 生活指導におけるSSWやSCの活用効果を「面倒見の良い学校」として、対外的アピールをすると良い。 令和3年度はコロナ禍で、クリーンキャンペーンや共同学習や資格取得等、満足いく実施ができなかったとのことだが、次年度は代替案や対策等を準備し学校に対する満足度が達するようにお願いしたい。 GIGA構想の環境整備も進んでいる。ICT機器の活用で生徒との会話が増える事で支援に繋げて欲しい。 引き続き、生徒が抱えるストレスに対する対処や、生徒の学びの意欲を繋ぐことができるようきめ細やかな支援等、生徒を大事にした教育活動をお願いしたい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R2年度値]	自己評価
1 確かな学力の育成	<p>(1)基礎学力向上。</p> <p>ア 生徒の学習意欲を高める「わかる授業」の実現。</p> <p>イ 生徒の基礎学力の定着。</p> <p>ウ 教員の更なる授業力向上。</p> <p>(2)特色ある教育課程の充実。</p> <p>イ 特別非常勤講師等の外部講師の積極的活用、本物に触れる教育。</p>	<p>ア 生徒の学習意欲を高め「わかる授業」を実現するため、全教科・科目において、ICT機器活用を推進し授業内容・方法の改善を進める。</p> <p>イ 生徒の基礎的・基本的な学力の定着をめざした授業改善の一環として、学び直しを目的とし、反復練習を主としたモジュール授業(理、数、国、英)を1年生中心に継続・拡大する。</p> <p>ウ 教員の更なる授業力向上のため、ユニバーサルマナー検定2級と3級に複数名参加し、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりを推進する。</p> <p>イ 特別非常勤講師や高度熟練技能者等の外部講師を積極的に活用し、生徒の興味・関心が深まる授業づくりや、資格取得指導・進路講話など、生徒のキャリア意識が高まる本物に触れる教育を実施する。</p>	<p>ア 生徒向け学校教育自己診断における「わかりやすい授業が多い」を、74.0%以上に引き上げる。[71.9%]</p> <p>イ 4月の診断テスト結果より1月実施の診断テストでの正答率1.60倍をめざす。[1.54倍]</p> <p>ウ ユニバーサルデザインの視点を取り入れた、授業づくりの職員研修を実施する。[年1回]</p> <p>イ 外部講師の実践による指導を活用し、300h以上の授業に関わってもらう。[350h]</p>	<p>ア 「わかりやすい授業が多い」…64.1%(△)。一つには、3名の新着任教員の戸惑い等が影響していると考えられる。様々な課題を抱えた生徒に対して、ICT機器を積極的に活用し、更に内容に工夫を凝らす必要があると考える。</p> <p>イ 4月の診断テスト結果より1月末実施の診断テストでの正答率…1.68倍(○)。</p> <p>ウ ユニバーサルマナー検定は、3級に1名が合格、教職員への伝達講習を1回実施した。…(○)。職員室や学年会・教科会等にて受講者と情報交換しながら、弱者に寄り添う視点を取り入れた授業づくりについて行っている。</p> <p>イ 外部講師の実践による指導を授業に活用した…342h(○)。在籍生徒が減る中、次年度も現状を維持していきたい。</p>
2 生	<p>(1)豊かな人間性を涵養する。</p> <p>ア 「農園実習」や「ボ</p>	<p>ア 「農園実習」や「ボランティア活動」を通して、豊か</p>	<p>ア 生徒向け学校教育自己診</p>	<p>ア 「学校に対する満足度」…71.1%(△)。教員の生徒</p>

府立藤井寺工科高等学校 定時制の課程

<p>徒の規律・規範の確立と豊かな心をはぐくむ</p>	<p>ランティア活動」を通しての教育。</p> <p>イ 「寄り添う教育」を基幹とし、生徒の規範意識の醸成。</p> <p>ウ 校種間連携での豊かな人間性育成。 (2)キャリア教育・資格取得の充実。</p> <p>ア 入学時から進路指導を実施。就職支援体制整備。</p> <p>イ 進路につながる資格取得のための支援の充実。 (3)中途退学・不登校減少の取組み。</p> <p>ア 中途退学・不登校を減少させるための取組みを行う。</p> <p>イ 「課題を抱える生徒フォローアップ事業」の活用。</p>	<p>な人間性、自尊感情や自己有用感を育む。</p> <p>イ 校則遵守、学習規律など生徒の規範意識の向上を図るとともに、規範意識の醸成を育むための地域貢献として、学校周辺の清掃活動「クリーンキャンペーン」を実施する。</p> <p>ウ 支援学校等との共同学習を実施する。</p> <p>ア 職場体験や学校見学など、生徒の進路実現の支援を充実させる。</p> <p>イ 進路につながる資格取得の推進を通して、キャリア教育の充実を図る。放課後や短縮授業期間、夏休み等を使い講習を行う。</p> <p>ア 中高連携・人間関係・居場所づくり・基礎学力講座等を通じ、中途退学・不登校を減少させるための充実に重点をおき、家庭はもちろん生徒の雇用主とも連携を深め、授業への出席率を向上させることで中途退学の減少に取り組む。</p> <p>イ 「課題を抱える生徒フォローアップ事業」を活用し、生徒支援(中退防止)コーディネーターを中心としたプロジェクトチームによる、様々な課題を抱える生徒への支援体制づくりや、教育相談を充実させ、生徒が安心して学校に通える環境づくりを行う。</p>	<p>断における学校に対する満足度を76%にする。 [74.3%]、ボランティア参加者を在籍数の10%以上の人数を確保する。 [7.8%]</p> <p>イ 「クリーンキャンペーン」を年間5回実施、継続する。[4回]</p> <p>ウ 年2回の支援学校との共同学習の再開継続。 [0回]</p> <p>ア 進学希望者の進学率[50.0%]、就職希望者の内定率[76.0%]。共に少数で、一人の結果で大きく動く。とにかく希望者全員合格100%をめざす。</p> <p>イ 資格取得数を、年間延べトータル数を在籍者数の30.0%以上をめざす。 [26.4%]</p> <p>ア 中途退学率を10.0%以下にする。[12.9%](R03.03.31現在)</p> <p>イ SSWやSCも含めたケース会議やコア会議を昨年並みに実施する。 [33回]</p>	<p>一人ひとりに寄り添った教育活動を推進・継続したい。 ボランティア参加者…18.5%(○)。引き続き、来年度も自己有用感を育成すべく啓発していきたい。</p> <p>イ 令和3年度、「クリーンキャンペーン」は、本校関係者のみで実施…4回(○)。コロナ禍の影響がなければ、地域の方々と一緒に実施できたと考えられる。次年度も継続する。</p> <p>ウ 支援学校との共同学習は、コロナ禍により中止した。 (-)</p> <p>ア 本年度、進学希望者の進学率…100%(○)、就職希望者の内定率…100%(○)。入学年度よりキャリア教育を実施し、生徒自ら進路選択し、実現できるようサポートする。</p> <p>イ 本年度の資格取得数…19.5%(△)(R04.03.18現在)。生徒数の減少や検定料の値上げ、またコロナ禍による受験取り止め等の影響が大きいと考えられる。来年度も個々の能力に応じた指導を継続する。</p> <p>ア 中途退学率…8.5%(○)(R04.03.18現在)引き続き、「なごみカフェ」や教育相談室等の居場所を確保し、教員が細やかな対応をしていく。今年度も不定期になったが、学生ボランティアの役割も大きい。</p> <p>イ 本年度、SSWやSCも含めた、ケース会議やコア会議…43回実施(○)。SCのカウンセリングや、SSWのアドバイスで、学校生活に不安のある多くの生徒が学校に定着できた。</p>
<p>3 学校・家庭・地域の連携と安全で安心な学校づくり</p>	<p>(1)安心と安全のための取組み。</p> <p>ア 校内の教育相談体制の充実。</p> <p>イ 交通安全指導。</p> <p>ウ 覚せい剤・大麻等の薬物乱用防止教育の実施。</p> <p>(2)家庭・地域との連携、地域から信頼され必要とされる学校づくり。</p> <p>ア 家庭との連携による生徒出席状況の改善。</p> <p>イ 在籍生徒の出身中学校を訪問し、生徒理解や生徒支援の充実を図る</p> <p>ウ 近隣幼稚園等の園児・地域の方等、地域と共に歩む学校づくり。</p>	<p>ア 多様な生徒・保護者の相談や需要数の増加を受け、より一層教育相談体制の充実を図り、SC(スクールカウンセラー)・SSW(スクールソーシャルワーカー)の活用を図る。</p> <p>イ 通学時の安全確保のため、自動車・バイク・自転車通学者に対して交通安全指導を行う。</p> <p>ウ 薬物乱用防止教室の実施、生徒・保護者への啓発等、充実を図る。</p> <p>ア 保護者懇談会の充実や学年通信等を発行する等、家庭との連絡を頻繁に行い、家庭との連携を深める。</p> <p>イ 在籍生徒の出身中学校を訪問し、情報交換等を行い、生徒理解や生徒支援のための中学校との連携を深めるとともに、本校の教育活動の広報を行う。</p> <p>ウ 近隣の幼稚園等の園・地域の人々を、農園の作物収穫へ招待し、地域との連携を継続し本校の教育活動への協力と理解を深める。</p>	<p>ア 生徒向け学校教育自己診断「担任以外に相談することができる先生がいる」を63%に引き上げる。 [59.4%]</p> <p>イ 交通安全指導を年間3回以上開催。[4回]</p> <p>ウ 薬物乱用防止教室を年間2回開催する。 [2回]</p> <p>ア 保護者向け学校教育自己診断における学校に対する満足度を83%以上にする。 [81.0%]</p> <p>イ 出身中学校全校訪問を維持する。[38校]。(R02年度はコロナ禍の影響により38校訪問、4校電話資料送付)</p> <p>ウ 年間に10団体程度を農園に招待する。 [2団体]</p>	<p>ア 生徒向け学校教育自己診断「担任以外に相談することができる先生がいる」…64.1%(○)。居場所づくりや様々な行事を通じて生徒と接する時間を確保しカウンセリングマインドを持って生徒に接していきたい。</p> <p>イ 交通安全教室…4回実施(○)。コロナ禍によって、警察官の講話は実施できなかった。</p> <p>ウ 薬物乱用防止教室開催…2回(○)。大麻乱用が極めて深刻な状態となっている。薬物乱用防止に努めたい。</p> <p>ア 保護者向け学校教育自己診断における学校に対する満足度…81.3%(△)。引き続き、保護者との連携(電話連絡、家庭訪問・郵送等)を深めていきたい。</p> <p>イ 生徒出身中学校訪問…42校(○)。6名の学校見学者があった。定時制のニーズを発掘し、伝達していく。</p> <p>ウ 農園に招待…4団体、138名(○)。コロナ禍により4団体の招待となったが、感染対策を徹底して実施し、ほぼ目標は達成したと考える。次年度も近隣地域の方々や幼稚園児・支援学校生徒等との交流を</p>

府立藤井寺工科高等学校 定時制の課程

	オ 合理的な配慮の推進「ともに学び、ともに育つ」学校づくりをめざす。	オ 生徒が安心して学校生活を送れるよう、合理的配慮を推進するための研修会を実施する。	オ 合理的配慮に関する研修会を2回行う。 [2回]	オ 合理的配慮に関する研修会…2回実施(○)。今後もSC及びSSWを中心に、様々な角度からの研修を実践していく。
4 学 校 運 営 の 活 性 化 と 教 職 員 の 資 質 向 上	<p>(1)学校運営の活性化を図る。</p> <p>ア 学校経営の推進。</p> <p>イ 分掌や委員会等の活性化、生徒の情報共有、速やかな課題解決。</p> <p>ウ 働き方改革の推進。</p> <p>エ 学校経営の状況を、学校運営協議会等で公表し学校運営に資する。</p> <p>(2)教職員の資質向上を図る。</p> <p>ア 日常的なOJTの推進と校内研修の活性化。</p> <p>イ 教職員の資質向上及び校内運営を担う人材の育成。</p>	<p>ア 経営戦略会議(准校長・教頭・首席)を定期的に開催し。首席の役割を見直し、首席を中心に各分掌長とコミュニケーションを密に取りながら、PDCAサイクルによる学校経営を推進する。</p> <p>イ 分掌や委員会等の活性化と効率化を図り、生徒の状況や配慮事項等の情報共有を定期的に行い、速やかに課題解決に臨む。</p> <p>ウ まずは「定時退庁」に努め、週1回の「全校一斉退庁日」及び「ノークラブデー」の確認、「学校閉庁日」の設定の意義など、教職員一人ひとりの意識改革を進める。</p> <p>エ 学校自己診断など教育活動その他の学校経営の状況を、学校運営協議会等で公表し学校運営に資する。</p> <p>ア 日常的なOJTの推進を図るため、教職経験の長短を考え職員室の机配置を工夫する。また職員会議等を利用した校内研修の活性化を図る。</p> <p>イ ベテランの教職員の協力を得ながら、ミドルリーダーの育成や、経験の少ない教職員の資質向上を図り、次世代の校内運営を担う人材の育成を行う。</p>	<p>ア 経営戦略会議年間 40 回以上実施[45 回]し、首席を中心とした分掌長会議を開催、随時経営計画の進捗状況について検証、その後分掌会議を開き情報を共有する。</p> <p>イ 教員向け学校教育自己診断「本校の教育活動について、教員間で日常的に話し合っている」を 88%に引き上げる[87.5%]。</p> <p>ウ ストレスチェック総合リスク[69]を、維持する。</p> <p>エ 教員向け学校教育自己診断「教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている」を 78%以上に引き上げる。[75.0%]</p> <p>アイ 外部研修会へ積極的に推薦し、校内研修・報告会・連絡会を合わせて、10 回以上実施する。[4回]</p> <p>ただし、働き方改革を視野に入れ、生徒との触れ合い・教材研究・生徒指導等の時間確保のため、職員会議後を利用し、その都度研修会・報告会・連絡会を短時間で簡潔に実施し、全教員で共有する。</p>	<p>ア 経営戦略会議…45 回(○)。</p> <p>経営戦力会議後の首席を中心とした毎週の分掌長会議・情報交換会等、継続していきたい。</p> <p>イ 教員向け学校教育自己診断「本校の教育活動について、教員間で日常的に話し合っている」…80.8%(△)。分掌会議・情報交換会や各種委員会・打合せ会等を定期的実施していきたい。</p> <p>ウ ストレスチェックの総合リスク…63(◎)(全国平均 100 を大きく下回りおおむね良好な状態)。今後は、更に業務の平準化や風通しの良い職場環境をめざす。</p> <p>エ 教員向け学校教育自己診断「教育全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている」…76.9%(△)。学校運営協議会で指摘された部分も含めて、次年度以降緩やかに改善していきたい。</p> <p>ア 各種校内研修…11 回実施(○)。感染対策を徹底し実施した。今後も現状に即した校内研修を各分掌等と連携しながら、企画・立案し実施していきたい。</p> <p>イ 積極的に研修に参加する教員が多く、外部研修会へ延べ 45 人(昨年度 30 人)が参加した。次年度も、働き方改革を視野に入れながら、外部研修で学んだ内容を、全教員で共有できる様に、職員会議後を利用し、その都度研修報告会を短時間で簡潔に実施したい。</p>